



楽しく
快適

[展開方向Ⅲ]

サイクルツーリズムの推進

雄大で豊かな自然や冷涼な気候など、本道の各地域の優位性を最大限に生かし、国内外からのサイクリストの受入環境づくりを進めるなど、北海道ならではのサイクルツーリズムの推進を図ります。



国内外のサイクリストの誘客、北海道の特性を生かしたサイクリング環境の創出

現 状

- ・健康志向の高まりや旅行ニーズの多様化など、国内外を問わず、サイクリングへの関心が高まっており、愛媛県のしまなみ海道や滋賀県のぐるっと琵琶湖サイクルラインなど、全国各地でサイクルツーリズムの取組が活発化
- ・台湾など、サイクリングが盛んな国をターゲットとして積極的なプロモーションが展開

課 題

- ・本道を訪れるサイクリスト等に係るデータの収集・分析
- ・自治体、関係機関、民間事業者等との連携促進

主な取組

- ・サイクリング環境の向上に向けたサイクリストの嗜好やニーズ等の把握、分析
- ・国や地域など、市場ニーズ・ターゲットに応じた戦略的なプロモーションの展開
- ・サイクリングガイドなどサイクルツーリズム推進を担う人材の育成・確保の検討



自転車利用環境の整備の推進(再掲)

**現 状
(再掲)**

- ・自転車と歩行者が分離された安全で快適な自転車通行空間の整備を効果的、効率的に展開するため、自転車ネットワーク計画の策定を推進

課 題

- ・観光客に魅力的なサイクリングルート of 整備・磨き上げ
- ・国内外への情報発信の強化



主な取組

- ・国が検討しているナショナルサイクルルート*²¹を見据えた広域的なサイクリングルートの検討・整備
- ・公共交通との連携など、自転車と他の交通手段を複合的に活用したサイクリングルートの検討
- ・案内標識*²²や路面表示（矢羽根型）など安全・安心で快適な満足度の高いサイクリング環境づくりの推進
- ・サイクリングルートやレンタサイクル*²³など、利用ニーズを踏まえた情報発信

国内はもとより、海外からも多くのサイクリストが、「楽しく」「快適」にサイクリングすることができる北海道を実現

column

◆びばいで楽しむサイクルツーリズム

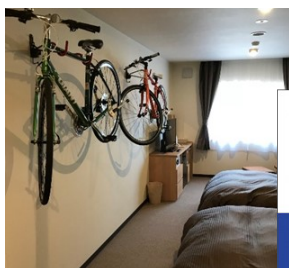
サイクリングと観光を組み合わせた「サイクルツーリズム」は、地域活性化の新たな取組として全国各地で注目されており、道内でも様々な市町村が、サイクルツーリズムの推進に取り組んでいます。

美唄市では、平成24年の台湾サイクリスト協会理事長の来訪をきっかけに、取組がスタートしました。近年の外国人観光客によるインバウンドやサイクルイベントの実施などにより、美唄市を訪れるサイクリストなどの増加が見込まれることから、官民で協力して、サイクリストに配慮した様々な取組が展開されています。

例えば、防水加工が施された手のひらサイズまで折りたためるサイクリングマップの作成や初級者から上級者までが楽しめる全長15kmから70kmまでの4つのサイクリングコースの設定などが行われており、初級者向けの15kmコースには、コースの進路を示す案内標識を設置しているほか、サイクリング中に、気軽に休憩できるように、市内12箇所の店舗や公共施設にサイクルラックや空気入れ、工具セットを設置し、「びばいサイクルポート」として登録するなど、サイクリストが快適に走行することができる環境整備が進められています。



各コースのQRコードを読み取るとGPSナビゲーションの「ルートホ」にリンクできる



愛車と一緒に宿泊が可能

目印のステッカー



また、美唄温泉ピパの湯ゆ〜りん館ではサイクリング拠点施設として、平成30年4月にANNEXがオープンし、宿泊室にはサイクルハンガーが取り付けられています。

さらにハード面の整備だけではなく、サイクリングイベントなどで、安全・快適なサイクリングのサポート役となるサイクルガイドを養成するため、年4回講習会を開催するなど、官民連携による自転車を活用したまちづくりが展開されています。

◆公共交通機関との連携

利尻町・利尻富士町では、サイクルツーリズム等の観光事業との連携や公共交通機関の利用客の増加などを旨し、路線バス事業者と協力して、バスを改造することなく、バス車内に自転車を持ち込み、島内を移動する新たな取組を行っています。

このように自転車と他の交通手段を複合的に活用する取組が、道内でも始まっています。

